

中隊農場經營法

昭和二十一年四月十日  
陸軍省農務部  
中隊農場經營法

陸軍省農務部  
第三五四〇部隊經理部



47.12.18

1576

# 中隊農場經營法目次

一、所 要 量	一
二、農 具	二
三、勞 力	二
四、栽培蔬菜ノ主ナル種類	二
五、播種期並ニ播量、採收量	二
六、農場ノ面積	六
七、作付並ニ採收量	六
運城地方ニ於ケル農作物生育期間一覽表	折込
八、蔬菜ノ輪栽ト連栽	九
九、播 種 法	一〇
一〇、蔬菜栽培上内地ト特ニ異ナル點	一
畦ノ型(第一圖)	二
蔬菜根ノ生育比較(第二圖)	三
北支ニ於ケル灌溉ト野菜ノ生育、内地ニ於ケル降雨ト野菜生育關係(第三圖)	一四
北支ニ於ケル西瓜、甜瓜、南瓜、ノ植付、内地ニ於ケル西瓜、甜瓜、南瓜ノ植付(第四圖)	一五
畦ノ型(第五圖)	折込
一一、農場年中行事	一七
一二、蔬菜ノ貯藏法	二二
一三、野菜ノ漬物法	二三

## 中隊農場經營法

中隊所要ノ野菜類ハ其ノ警備地區内ニ於テ極力自給ヲ本旨トシ現地調辨ト自隊生産トニ依リ自活ノ途ヲ講スルモノトス

中隊農場經營ニ必要ナル事項ヲ左ニ摘記シ實施上ノ參考ニ供セントス

### 一、所要量

一ケ中隊、一ケ年ノ所要量六〇、〇〇〇疋

一ケ中隊兵數二五〇人トシ算出基礎左ノ如シ

	野 菜 日 量	追 送 乾 燥 野 菜 控 除 數 量	差 引 日 量	中 隊 一 ケ 年 所 要 數 量	廢 葉 量 約 四 割 ヲ 含 ム 一 ケ 年 ノ 所 要 量	摘 要
	六〇〇	一一〇	四八〇	四三、八〇〇	六〇、〇〇〇	

右記野菜數量ヲ全部自隊農場ニテ生産スル場合ニ於ケル農場所要材料並ニ勞力其他左ノ如シ

二、農具

品目	數量	品目	數量	品目	數量	品目	數量
支那馬車	一台	唐 鋤	二〇挺	支那鋤	一〇挺	草 削	一〇挺
水 車	三台	シヨヘル	一〇挺		三挺	ホ	一〇挺

三、勞力

常用苦力 一二名 ▲灌溉ニ便ナル地方ニ在リテハ常用苦力八名ニテ可ナリ

畜力馬 四頭 ▲灌溉ニ便ナル地ニ在リテハ二、三頭ニテ可ナリ

監督指導者 一名 ▲指導並ニ苦力監督兵一名ヲ要ス

四、栽培蔬菜ノ主ナル種類

茄子、蕃茄、胡瓜、西瓜、南瓜、大根、牛蒡、人蔘、蕪菁、二十日大根、美濃早生大根、白菜、甘藍、菠  
 菘草、萵苣、<sup>ナシヤ</sup>春菊、芥子菜、高菜、葱、<sup>タマホギ</sup>體菜、菜豆、豌豆、<sup>ターホギ</sup>葱頭、里芋、花野菜等アリ

五、播種期並ニ播量、採收量

種類	茄子	トマ	胡瓜	西瓜	南瓜	大根	牛蒡	人参
反當播種量	二五〇 <sup>斤</sup>	二五〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	五〇〇	七〇〇	一〇〇〇
反當採收量	二五〇 <sup>斤</sup>	〇〇〇	九〇〇	〇〇〇	二〇〇〇	〇〇〇	七〇〇	二、五〇〇
播種ノ時期	四月上中旬	四月上旬	四月上中旬	同	同	八月上旬—九月上旬	係三月下旬—四月上旬 秋九月中下旬	四月下旬—五月上旬
摘	播種ノ方法ハ別ニ記載ス	直播又ハ一回移植	直播	同	同	同	同	

三

1580

里 芋	葱 頭	萵 苣	菠 薐 草	甘 藍	白 菜	美 濃 早 生	二 十 日 大 根	燕 菁
一五〇〇〇〇	八〇〇	四〇〇	二二〇〇	四〇〇	五〇〇	七〇〇	五〇〇	四〇〇
一〇〇〇〇〇	一、五〇〇〇	七五〇〇	一、五〇〇〇	一、五〇〇〇	一、二〇〇〇	八〇〇〇	五〇〇〇	七五〇〇
四月下旬—五月上旬	四月上旬	四月上旬	春三月上中旬 秋九月上中旬	四月上旬	八月上旬	四月上旬又ハ七月上 旬	三月下旬—四月上旬	八月上旬
種球	内地ニ於テハ反常約三、五 〇〇疋					内地ニ於テハ約四、〇〇〇 疋ヲ採收		

四

瓜 哇 薯	豌豆	花 椰 菜	菜 豆	體 菜	葱	高 菜	芥 子 菜	春 菊
二〇〇〇〇	三〇〇〇	四〇〇	三〇〇	五〇〇	一五〇〇	五〇〇	五〇〇	七〇〇
一〇〇〇〇	六〇〇〇	五〇〇〇	八五〇〇	九〇〇〇	一、五〇〇〇	九〇〇〇	二、〇〇〇〇	一、二〇〇〇
四月上中旬	同	四月上旬	五月上中旬	八月下旬—九月上旬	四月上中旬 九月上中旬	八月中下旬	四月上中旬 九月上中旬	三月下旬—四月上旬 九月中下旬
	内地ニ於テハ秋ニ蒔付スルモノ	内地ニ於テハ九月上中旬蒔付スルモノ			内地ニ於テハ三〇〇〇底、四〇〇〇底ハ普通			

五

1582

六、農場ノ面積

面積四〇反歩

耕地面積ハ土質ノ良否、水質良否其他栽培技術等ニ依リ異ナルモ中隊所要一ケ年六萬疋ヲ採收スルニ耕地  
四〇反歩ヲ必要トス

七、作付並ニ採收量左ノ如シ


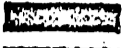

品目	栽培反別 (延反數)	播種期	採收期	反當採收量	採收量
茄子	一五〇 <sup>反</sup>	四月上中旬	七月下旬—十月上 中旬	一、三〇〇 <sup>斤</sup> 〇〇〇	一、九五〇 <sup>斤</sup> 〇〇〇
トマト	二〇〇	四月上旬	七月下旬—十月上 旬	一、〇〇〇 〇〇〇	二、〇〇〇 〇〇〇
胡瓜	一五〇	四月上中旬	六月下旬—八月上 中旬	九〇〇 〇〇〇	一、三五〇 〇〇〇
西瓜	二〇〇	四月上中旬	七月中旬—九月中 旬	一、〇〇〇 〇〇〇	二、〇〇〇 〇〇〇
南瓜	二〇〇	四月上中旬	十月下旬—十一月 下旬	一、二〇〇 〇〇〇	二、四〇〇 〇〇〇






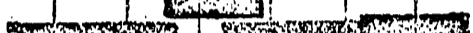








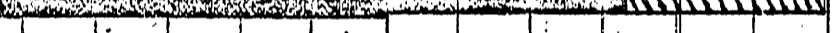




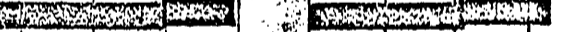


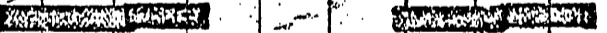
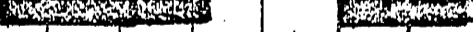

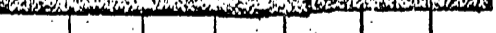
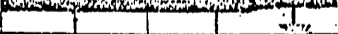
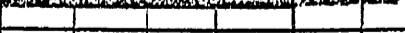


渡 菘 草	甘 藍	白 菜	美 濃 早 生	二 十 日 大 根	燕 麥	人 參	牛 蒡	大 根
五〇〇	四〇〇	三〇〇	二〇〇	一五〇	一〇〇	四〇〇	五〇〇	四〇〇
秋 九 月 上 中 旬	春 三 月 上 中 旬	八 月 上 旬	四 月 上 旬 又 ハ 七 月 下 旬	三 月 下 旬 — 四 月 上 旬	八 月 上 中 旬	四 月 下 旬 — 五 月 上 旬	三 月 下 旬 — 四 月 上 旬 九 月 中 下 旬	八 月 上 旬 — 九 月 上 旬
十 月 探 收 ハ 翌 年 三 月 中 ニ 採 收 ス 六 月 十 日 テ 採 收 ス	八 月 上 旬 — 十 二 月 下 旬	十 一 月 上 旬 — 十二 月 上 旬	九 月 上 中 旬	五 月 中 旬 — 六 月 上 旬	五 月 上 中 旬	十 月 上 旬 — 十一 月 中 下 旬	九 月 上 旬 — 翌 年 三 月 マ デ	八 月 上 旬 — 十二 月 又 ハ 翌 年 三 月
一、 五〇〇 〇〇〇	一、 五〇〇 〇〇〇	一、 二〇〇 〇〇〇	八 〇〇 〇〇〇	五 〇〇 〇〇〇	七 五〇 〇〇〇	二、 五〇〇 〇〇〇	七 〇〇 〇〇〇	一、 〇〇〇 〇〇〇
七、 五〇〇 〇〇〇	六、 〇〇〇 〇〇〇	三、 六〇〇 〇〇〇	一、 六〇〇 〇〇〇	七 五〇 〇〇〇	七 五〇 〇〇〇	一、 〇〇〇 〇〇〇	三、 五〇〇 〇〇〇	四、 〇〇〇 〇〇〇

豌豆	花椰菜	菜豆	葱	高菜	芥子菜	春菊	里芋	蒿 <sup>チ</sup> 苣 <sup>ンヤ</sup>
一〇〇	一五〇	一〇〇	二〇〇	一〇〇	二〇〇	二〇〇	一〇〇	一〇〇
四月上旬	四月上旬	五月上旬	四月上旬 九月上旬	八月中下旬	四月上旬 九月上旬	三月下旬 四月上旬 九月中下旬	四月下旬 五月上旬	四月下旬
六月下旬—七月中旬	九月上旬—十月上旬	七月上旬—八月上旬	九月下旬—十二月下旬	十一月上旬—十二月下旬	六月上旬—十一月上旬	五月上旬—十一月中旬	八月下旬—九月中旬	五月中旬—六月中旬
六〇〇〇〇	五〇〇〇〇	八五〇〇〇	一、五〇〇〇〇	九〇〇〇〇	二、〇〇〇〇〇	一、二〇〇〇〇	一、〇〇〇〇〇	七五〇〇〇
六〇〇〇〇	七五〇〇〇	八五〇〇〇	三、〇〇〇〇〇	九〇〇〇〇	四、〇〇〇〇〇	一、四〇〇〇〇	一、〇〇〇〇〇	七五〇〇〇

運城地方ニ於ケル  
農作物生育期間一覽表

 播種ヨリ收穫期前ノ發育期間  
 收穫ノ期間  
 貯藏ノ期間

1586

品目	月別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	二年目	一月	二月	三月	四月	備考					
牛蒡																				内地ニ於テハ秋蒔ニスルモ當地ニ於テハ春蒔ヲ可トス				
人參																						鹽分ニ最モ強シ		
大(秋)根																						當地ニ於テハ宮重大根ガ適ス		
時無大根																							春夏蒔ヲ可トス	
美濃早生大根																								
廿日大根																								
蕪菁																								
茄子																								鹽分ニ強ク、移植ノ必要ヲ認メズ
南瓜																								當地ニ於テハ黒皮、甘栗ヲ可
甜瓜																								
西瓜																								
冬瓜																								
甘藍																								鹽分ニ強シ、晩生種ヲ可トス
白菜																								鹽分多キ地方ハ愛知白菜ヲ可トス
復葉草																								春期ハ播種後四十五日目ヲ收穫出來得ルヲ以テ十日毎ニ蒔付ヲ可トス
長崎白菜																								
高菜																								
芥子菜																								
葱																								
蒿苣																								
春菊																								
小松菜																								
三尺サ、ゲ																								
ト、ト																								
小豆																								
大豆																								
蕪菁																								
小麦																								

計	五二〇〇	延反數			六二、五五〇〇〇
體	一〇〇	八月上旬ヨリ 九月中旬		九〇〇〇〇〇	九〇〇〇〇〇
			十月下旬ヨリ 十二月下旬		

内地ニ於テハ四季ノ野菜ヲ採收シ得ルモ當地ニ於ケル冬季野菜ハ栽培最モ困難ナル故ニ根菜類野菜ノ貯藏ヲ必要トス(根菜類ハ大根、人蔘、牛蒡等)

短期間ニ生育スル菠薐草、春菊、芥子菜、二十日大根ハ二毛作ニ耕地ヲ利用スルコト必要ナリ

八、蔬菜ノ輪栽ト連栽

作物ノ種類ニ依リテ多クソノ土中ノ肥料及ビ吸收方法ニ於テ各異ナンバ同一作物ノモツ同一地ニ栽培スルトキハ七地ハ其養分ニ偏耕ヲ來シ發育ヲ害シ收量ヲ減少セシムルニ至ルナリ。新ラシキ畑ニ栽培スレバ其年ハ最も好成绩ヲ擧グヘキモ次第ニ收量ヲ減少シ行クハ一般ニ見ル處ナリ。加之連作ノ結果病虫害ノ發生ヲ助長シ殊ニ或種類ノ蔬菜ニ至リテハ二年目ニ於テ全ク病的ノ状態ニ陥リテ完全ナル發育ヲ遂グルコト能ハサルノミナラズ數年間休閑スルニアラサレバ生育ノ望ミ難キモノアリ。故ニ成可ク蔬菜ヲ順次ニ作付ヲ行ヒ養分經濟ヲ計ル必要アリ。又反對ニ或種類ニヨリテハ之カタメ品質ノ向上ヲ來スモノアリコレ蔬菜ノ性質即チ習性ノ異ナルニ原因スルモノナリ

連作ノ程度ヲ示セバ左ノ如シ

- (1) 連作ニヨリテ却ツデ品質向上スルモノ。南瓜、人參、葱頭、大根
  - (2) 連作ノ害少ナキモノ。蕪菁、蓮根、花椰菜、甘藍、葱、胡瓜、蒿苣
  - (3) 一、二年間休栽スヘキモノ。里芋、菜豆、蠶豆、甜瓜、蒞薯
  - (4) 四、五年休栽スヘキモノ。西瓜、トマト、茄子、豌豆、牛蒡、結球、白菜
- 九、播種法

野菜類ノ大部分ハ殆ント播種ニヨリ繁殖セラル。播種ニ當リ注意スヘキハ新鮮ノ種子ヲ撰ムコト、其品種ノ確實ナル系統ノ正シキモノヲ撰ムコト必要ナリ。古種子ハ發芽不良ニシテ殆ント用ヲナサ、ル事アレハ殊ニ注意ヲ要ス。種子中ニハ子粒大ニシテ種皮薄ク容易ニ發芽スルモノ、種皮厚ク水分ノ吸收容易ナラス發芽ニ多クノ時日ヲ要スルモノアリ。又種子小ニシテ僅カノ覆土ヲ以テ發芽伸長スルモノアリ。是等ハ其性質ノ異ナルニ從ヒ播種ノ方法ヲ異ニセサルヘカラサナリ。

(1) 撒播

撒播ハ主トシテ發芽後移植又ハ定植スル蔬菜ニ行フ(甘藍、葱、葱頭、蒿苣、花椰菜)  
播種後發芽セハ其ノ苗ヲ本畑ニ移植又ハ定植ス。撒播ハ蒔床面ニ種子ヲ撒布スルカゴトク撒ニ蒔付スルモノナリ。播種後種子ノ大小ニ依リ異ナルモ當地力ハ空氣ノ乾燥、太陽光線強キタメ種子ノ直徑ノ七倍

乃至十二倍覆土スヘシ。又當地ニ在リテハ播種前日充分時床ニ灌水ヲ行フ必要アリ。  
普通種子ノ直徑ノ二倍半乃至三倍ノ覆土ヲ標準トス。

(2) 條播  
條播ハ當地ニ於テ蔬菜播種ノ殆ント此ノ方法ヲ行フ。蒔畦又ハ蒔床ニ淺ク溝ヲ作リ其ノ溝ニ種子ヲ溝ニ蒔付ス。(内地ノ麥蒔ハ總テ此ノ方法ナリ)覆土其他ハ撒播ニ同シ。條蒔ハ普通移植、定植ヲ行ナハサル蔬菜ニ行フ。

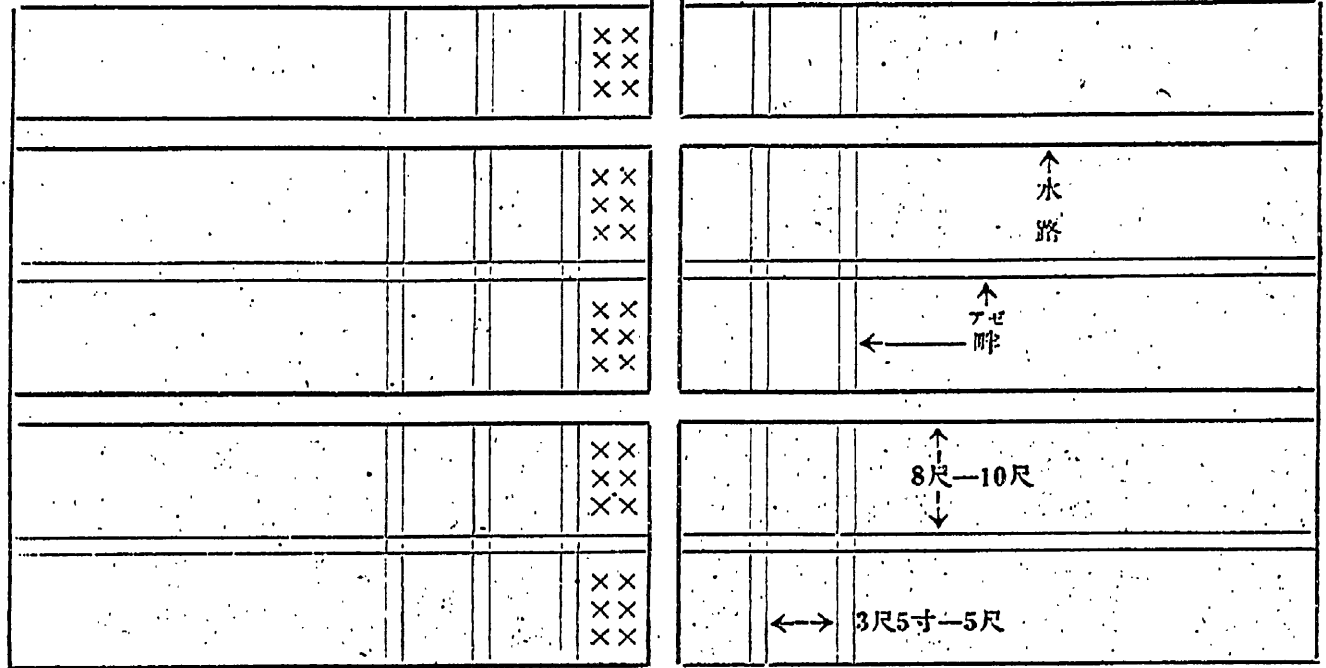
(3) 點播  
點播ハ普通大粒ノ種子菜豆、西瓜、南瓜、胡瓜、刀豆等ニ行フモノニシテ一名壘蒔トモ云フ一定ノ間隔ヲ置テ下種ス。覆土其他ハ撒播ニ同シ。

十、蔬菜栽培上内地ト特ニ異ナル點

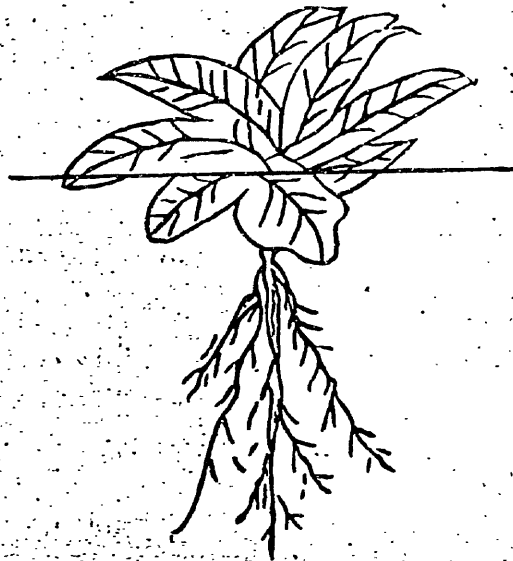
(1) 整地ノ方法  
内地ニ於テハ降雨多ク多濕ノタメ努メテ排水ヲ良好ナラシム。故ニ畦ヲ高畦造リニスルモ北支ハ降雨少ク乾燥甚クシキタメ努メテ土壤中ノ水分發散ヲ少ク保濕ニ努ム。故ニ低畦床ニ畑ヲ整地ス。(第一、五  
圖參照)

畦ノ型第一圖

井

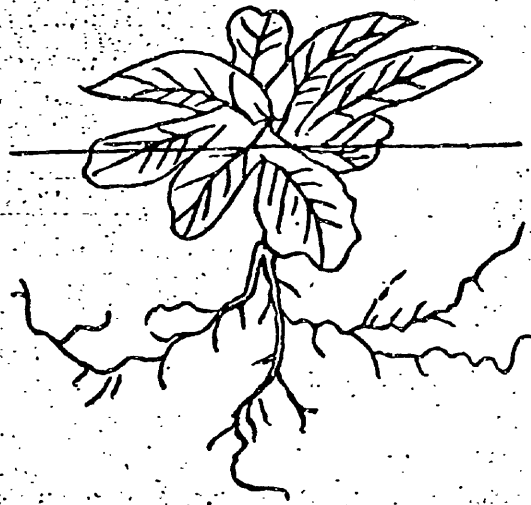


北 支



蔬菜根ノ生育比較

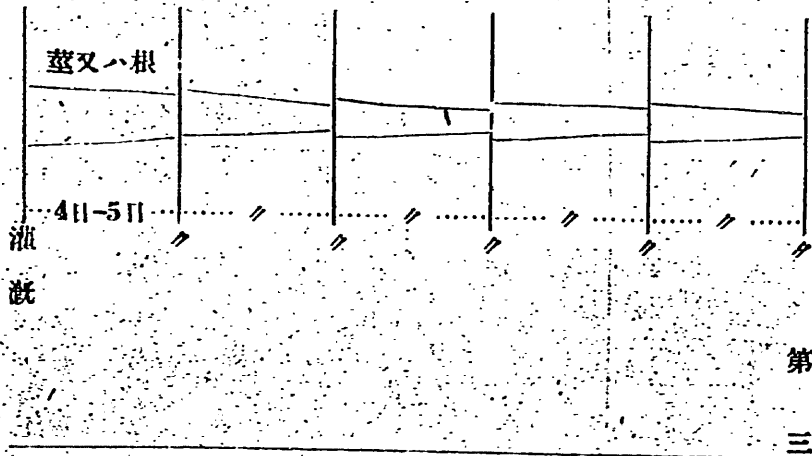
内地



第三圖

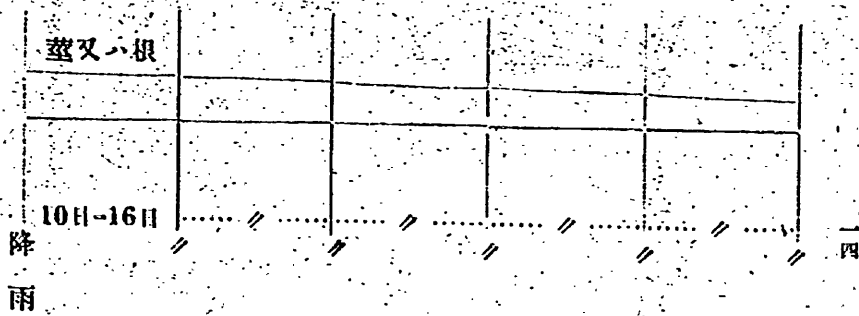


北支ニ於ケル灌溉ト野菜ノ生育



第三圖

内地ニ於ケル降雨ト野菜生育關係



一四

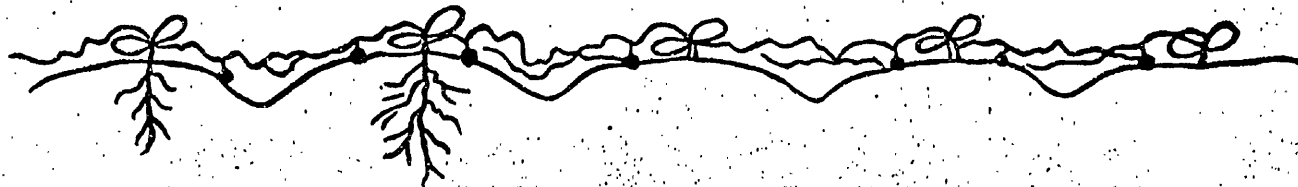
北支ニ於ケル西瓜、甜瓜、南瓜ノ植付

第四圖



主枝一本ニシ南ヨリ北ニ生育セシム、側枝ハ全部摘除スベシ

内地ニ於ケル西瓜、甜瓜、南瓜ノ植付



内地ニ於テハ自由ニ生育セシムモ收量ニ大差ナシ

(2) 蔬菜ノ根ノ生育ト施肥法

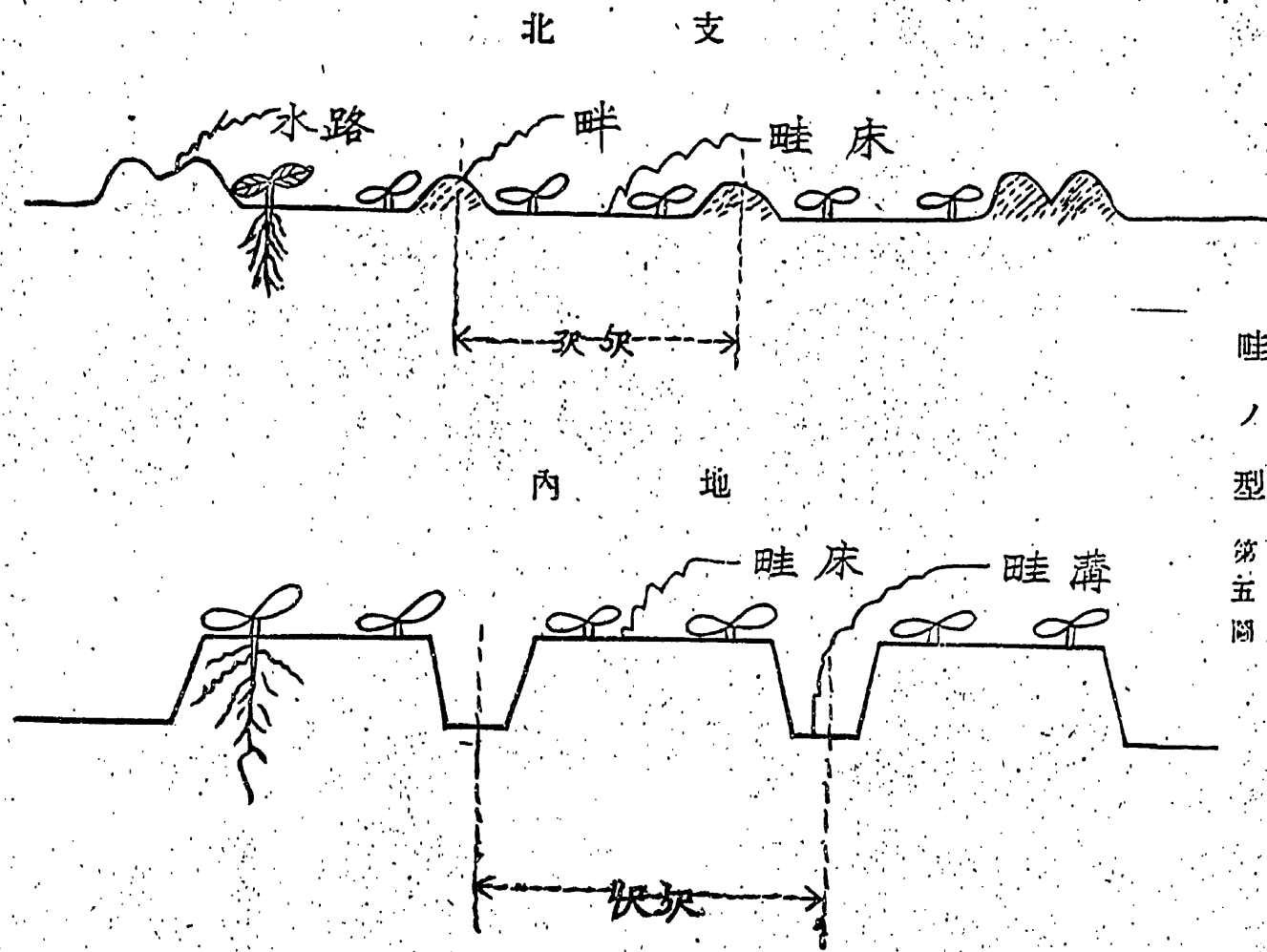
内地ニ於テハ降雨多ク多湿ノタメ上層部ニ於ケル根ノ發育旺盛ナリ(土中三寸乃至四寸ノ位置)故ニ肥料ハ地下三、四寸ノ深サニ施肥ス。固形肥料(大豆粕、魚粕、其他水分ヲ吸收セサル肥料)液肥(水肥)共ニ其效速カナルモ北支ニ在リテハ乾燥、日光共ニ強ク植物根ヲ試ルニ内地ニ比較シ非常ニ深根ナリ、主根、枝根、細根ノ最モ發育旺盛ナル部分ハ地下七寸乃至八寸ノ位置デアアル故ニ施肥ハ地下七寸、八寸ノ位置ニ施肥スルカ其效多シ。(第二圖參照)

(3) 灌漑ト蔬菜ノ發育ノ關係

内地ニ於テハ野菜類ノ栽培ニ灌漑スルコトハ希ナリ。其必要ナクシテ良好ク發育スルモ北支ニ在リテハ空氣ノ乾燥ハ勿論降雨少ナキタメ井戸水ヲ以テ灌漑栽培スル地多シ土中ノ乾濕ノ差最モ大ナルタメ蔬菜ノ生育モ不均ナル生育ヲナス。故ニ人工灌水ノ地ハ一回ノ灌漑量少ナク回数ヲ多ク施シタガ野菜生育旺盛ナリ。(第三圖參照)

(4) 蔬菜(西瓜、南瓜)ノ整枝

内地ニ於テハ發育旺盛ニシテ瓜類ノ如キモ側枝ヲ自由ニ繁茂セシムモ採收量ニ大差ヲ認メズ北支ニ在リテハ側枝ノ摘除セサル場合ハ發育不良ニシテ落花多ク結實不良ナリ。故ニ側枝ヲ摘除シ主枝ノミ生育セシム(第四圖參照)



畦ノ型 第五圖

(5) 蔬菜ノ移植

内地ニ於テハ移植ハ最重要ナル栽培技術ナリ。茄子、トマト、胡瓜、南瓜、甘藍、花椰菜、萵苣等ノ如キハ移植回数多ケレハ採收量モ又多シ。當地ニ在リテハ夫ト反對ニ移植苗程本畑ニ於テ發育モ不良、採收量モ少シ。故ニ總テノ蔬菜ハ直播ラスヘシ。

一、農場年中行事

氣候風土ノ變化セル北支ニ在リテハ相當困難ナリト思考セラルル此ノ年中行事ハ運城野戰倉庫農場ニ於ケル栽培ヲ參考トシ抽出シタルモノナリ北支ト内地ノ蔬菜栽培上特ニ異ナル點ハ四季ニ蒔付スルモノヲ初夏一季ニ四季分ヲ蒔付スル種類多シ又内地ニテ高畦作りヲ北支ハ低畦床作ニス。施肥ニ於テモ地上撒布ノ肥效甚少ナリ。

左ニ月別播種、管理、採收ヲ記載シ農場經營實施上ノ參考ニ供ス。

一 月

本月ハ北支ニ於ケル農業ノ閑期ニシテ行事少ナシ

貯藏中ノ大根、白菜、葱、牛蒡等出庫

其他堆肥ノ切返シ、水路ノ修理、農具ノ修理

二 月

愈々來月ヨリ蒔付カ殆マル農具ノ修理、種子ノ揀別其他堆肥ノ切返シ、畑ノ中耕、培養土ノ調製等アリ

三 月

○播種 本月下旬ヨリ蒔草、二十日大根、春菊ノ蒔付ヲナス。蒔草ハ反當二、二〇〇疋、二十日大根

ハ五〇〇疋、春菊ハ七〇〇疋ノ種子ヲ要ス。温床ニ蒔付スル茄子、トマトハ本月ガ好期ナリ

○菜收 蒔草ノ菜收昨秋蒔シタルモノ。反當リ約一、五〇〇疋ヲ採收。

畑ノ作業、西瓜、胡瓜、南瓜、茄子、トマト、畑ノ蒔付準備

其他、支柱竹ノ準備、堆肥ヲ西瓜、南瓜、胡瓜、茄子ノ畑ニ運搬撒布

四 月

○播種 本月ハ最モ蒔付スルモノ多シ、全種ノ大半ヲ播種スヘシ

葱、胡瓜、茄子、トマト、南瓜、牛蒡、西瓜、甘藍、芥子菜、長崎白菜等アリ。内地ニ於テハ甘藍、ト

マト、茄子ハ普通温床又ハ冷床ニ蒔付シ一、二回移植後本畑ニ定植スルモノテアルガ、當池ハ植移ガ困

難ナルヲメ直蒔ス。發芽後ハ二、三寸毎ニ一本宛殘シ間引ス。五、六寸ニ生育シタル時ニ一尺五寸一

二尺間ニ一本宛ヲ殘シ其ノ中間ノ苗ハ移植變ヲ以テ丁寧ニ掘リ取リ他ノ畠ニ定植スヘシ。蒔草モ前月

ニ引續キ蒔付スヘシ

里芋、蓮根等モ本月下旬植込スヘシ

○採收 菠薐草ノ採收

五 月

○播種 甘藍、花椰菜、菜豆、人參

○定植 三月ニ蒔付シタ茄子、トマト苗ハ本月上旬ニ定植ヲ行フヘシ

本月下旬ヨリトマトノ定植ヲ始ム、株間一尺五寸—二尺スベシ

○施肥 三月ニ蒔付シタル菠薐草ニ人糞尿ノ追肥ヲ行フヘシ

○採收 菠薐草、春菊、二十日大根等アリ。

本月下旬ヨリ果菜類ノ發育最モ旺盛ナル故特ニ注意ヲ要ス。

其他トマトノ枝柱ノ準備、西瓜、南瓜ノ間引等行フヘシ

六 月

○播種 枝豆、餘蒔胡瓜、美濃早生大根

○定植 五月ニ引續キトマト、茄子、花椰菜、甘藍ノ定植スヘシ

○採收 芥子菜、長崎白菜、萵苣、二十日大根ノ採收

○管理 西瓜、南瓜ノ間引並ニ整枝、本月末ニ薄肥（人糞尿）ヲ施肥スヘシ

トマトノ側枝ノ發生ニ注意シ摘除スヘシ甘藍ノ害虫ニモ注意ス。

七月

○播種 小蕪菁、美濃早生大根

○定植 葱、甘藍、花椰菜モ定植スヘシ

○採收 胡瓜、南瓜、長崎白菜、牛蒡（昨年秋蒔ノモノ）

○管理 南瓜、トマト、胡瓜、西瓜ノ整枝、誘引

○施肥 南瓜、西瓜、トマト、甘藍、花野菜ノ四月ニ播種シタル野菜ノ全部ニ追肥ヲ行フヘシ

本月ハ乾燥甚タシク特ニ灌溉ニ注意ヲ要ス。又下旬ヨリ八月ニ掛ケテ當地ニ於ケル蔬菜採收ノ全盛期ナリ。各蔬菜ノ整枝、中耕、除草、害虫驅除其他手入ニ特ニ注意ヲ要ス

八月

○播種 白菜、大根、蕪菁其他秋蔬菜ノ總テハ本月ヨリ九月上中旬マデニ蒔付ヲ終ルヘシ

○採收 西瓜、トマト、南瓜、胡瓜、茄子、牛蒡、里芋、枝豆

○管理 中耕、除草、灌溉、トマトノ側枝ノ摘除並ニ誘引

○施肥 本月モ前月ニ引續キ人糞尿ヲ追肥トシテ各蔬菜ニ施用スヘシ

九月

○播種 前月ニ引續キ白菜ハ上旬中ニ蒔付スヘシ。大根、蕪菁モ本月中旬マデニ蒔付ヲ終ヘルシ、秋蒔中



旁モ中旬下旬ニ播種スヘシ

京菜、芥子菜、菠薐草モ本月上旬中旬ニ蒔付ルヘシ

○間引 白菜ノ間引、大根ノ間引

○採收 里芋、人參、本月上旬、西瓜、胡瓜ハ全盛期ヲ終ル

茄子ハ本月上旬全盛ナリ。甘藍、牛蒡、西瓜、南瓜、トマト

十月

○播種 芥子菜、菠薐草

○採收 甘藍、牛蒡、人參、高菜、芥子菜、茄子、トマト

○管理 稍々灌漑モ樂ニナル白菜、大根ハ本月ガ發育ノ全盛期ナリ

追肥ト共ニ灌漑ニ充分ノ注意ヲ要ス又結球、白菜、大根、最後ノ最後ノ間引ヲ行ヒ一本立トナスヘシ又  
アブラムシ、夜盗虫等ノ發生ヲ見ルヲ以テ成ルベク其初期ニ絶滅スルヤ様藥劑撒布ヲスヘシ

十一月

○採收 甘藍、人參、牛蒡、高菜、茄子

○管理 採收跡地ノ牛馬糞、本月ヨリ來月ニカケテハ播種スヘキモノ殆ントナク。十二月中下旬ヨリ採收  
貯藏、漬物加工ヲスルヲ以テ其準備貯藏庫ノ整理、糠ト鹽、漬物用樽等ノ準備

十二月

○採收 人參、大根、白菜、牛蒡、全部ヲ採收ス

○管理 採收跡地ノ牛馬耕

人參、大根、白菜、牛蒡、葱ハ貯藏モ容易ナリ。各部隊共冬季野菜ハ最モ不自由スルヲ以テ北支ニ在リテハ特ニ貯藏ト漬物加工ガ必要ナリ

一二、蔬菜ノ貯藏法

一、貯藏法ノ種類

(1) 原形ノ儘貯藏スルモノ

蓮根、シヨウガ 葱頭、大根、牛蒡、人參、甘藍、結球、白菜等アリ

原形ノ儘貯藏スヘキモノノ中食用ニ供スルモノト種子用即チ翌年ノ繁殖用ニ供スルモノトニ區別セラル

(2) 加工ノ上貯藏セラルモノ種々アリ其ノ主ナルモノヲ擧グレバ左ノ如シ

(イ) 乾燥ノ上貯藏スルモノ

人參、牛蒡、大根、シヨウガ 藍、蓮根、トウガラシ 蕃椒、南瓜、甘藷等アリ

(ロ) 漬物用ニ供スルモノ其範圍最モ多シ

鹽漬、酢漬、粕漬、味噌漬、芥子漬、福神漬、糠漬等アリ

## 二、貯蔵ノ方法（原形ノ儘貯スル方法）

### (1) 露地貯蔵法

人参、牛蒡、大根等ハ耐寒性ニ強キヲ以テ暖地ニハソノママニ置クモ北支ニ於テハ一度全部採收シ或一ヶ所ニ堆積シ或ハ半バ地中ニ埋メ上ヨリ麥稈、干草、吹等ヲ以テ覆ヒ其上ニ一尺五寸乃至二尺ノ厚サニ土ヲ覆ヒ置ケハ翌春マデ安全ニ而モ隨時採收スルヲ得

### (2) 溝内貯蔵法

或一定ノ温度以下ニ下降スル場合ハ氷結スルニ至ル、故ニ温度ノ降下ヲ防グト同時ニ濕氣ノ浸入ヲ防止スル必要アリ斯ノ如キモノハ排水良好ニシテ雨水ノ浸潤セザル所ヲ選ビ幅二尺五寸乃至三尺深サ三尺乃至三尺五寸長サハ適宜ノ溝ヲ掘リ其下底及ビ側壁ニ麥稈ヲ敷キ直接土ト接觸ヲ防グ、野菜ハ傷メルモノ及ビ腐敗ノモノヲ除去シ表面ニ附着セル水分ヲ乾シ填充シ其上ニ又麥稈ヲ載スコト七、八寸再ビ土ヲ覆ヒ屋根形ニ土ヲ覆フモノトス。此ノ方法ハ北支ニ於テハ最モ容易ニ出來得ル方法ニシテ其ノ結果モ良好ナリ。北支ニ於テ山地ノ支那住民ガ横穴ヲ掘リ其ノ穴ヲ住ヒトシテ其ノノヲヨク見受ルモ地ノ穴ニテ貯蔵充分ナリ。密室貯蔵法ハコンクリート造リ又ハ煉瓦造貯蔵室等アルモ北支ニ於テハ其ノ完備セル貯蔵庫ノ必要ヲ認メス

## 一三、野菜ノ漬物法

漬物ハ日常ノ副食物トシテ三度ノ食事毎ニ缺クコトノ出来ナイモノニシテ特ニ野戰ニ於テハ一層其ノ必要ヲ認ムルモノナリ而シテ漬物ハ其ノ種類甚々多ク漬物全般ニ亘リ詳細ニ記述シテモ漬物用材料等入手困難ニシテ實施シ得ズ此ノ地ニ於テ容易ニ實施出來得ル漬物法ヲ左ニ述ベシ

一、白菜ノ鹽漬

白菜ノ軟白部ノミトシ、外葉ノ別ニ漬込ムカ或ハ軟白部ノ下敷又ハ上敷ニス。白菜ヲ庖丁ニテ縦ニ二乃至四ツ割ニシ清水ヲテ充分洗ヒ半日乃至一日間日光ニアテ少シ萎凋セシメタ上漬込ムヘシ

漬込ノ割合、四斗樽一甕分ニ白菜六〇疋、鹽約一升乃至一升五合、<sup>トウガラシ</sup> 椒五瓦乃至十瓦、以上ノ準備ヲ

整ヘ所定材料ヲ大凡ソ三分シ鹽ハ五、三、二ノ割合ニ分チ、三分シタル材料(白菜)ヲ五ノ鹽デ下層部

ニ漬込ミ次ニ三分ノ一ノ材料ヲ三ノ鹽テ中層部ニ漬込ミ、殘ル三分ノ一ヲ二ノ割合ノ鹽テ上層部ニ漬込

ムノデアル漬込ノ間各層ニ<sup>トウガラシ</sup> 椒ヲ撒布ス、又酒ヲ二、三合注入スレハ味ヲ良クス。全部ノ漬込ガ終ラ

ハ蓋ヲ置テ約三、四十疋ノ重石ヲ載セル。表面ニ滲出スルニ至レハ約十五疋程度ノ重石ヲ追加スヘシ。

而シテ容器ハ温度ノ變化ノ少キ場所ニ靜置スヘシ

漬込日ヨリ約一週間後重石ヲ半分ニ輕減スヘシ、漬込後十日乃至二週間ヲ經過セバ食用ニ供サレル。漬

直シテ行ヘハ三月頃マデ變味大差ナシ

二、大根ノ鹽漬ト糠漬

時期ハ十一月ヨリ十二月下旬マデノ間ニ漬ルカ好期ナリ。大根ヲ採收ト同時ニ洗滌シ、陽乾シ其後漬込ムヘシ

食用ノ時期ニヨリ乾燥ノ程度ト鹽ノ加減ニ差アリ

食用ノ時期	乾燥ノ日數	乾燥ノ程度
二月 三月	五日—七日	根身柔軟トナリ少シ弓状ニ屈曲スル程度
四月 五月	一〇日—一二日	根身ニ「シワ」ヲ生シ殆ンド半圓形ニ屈曲スル程度
七月 八月	一二日—一六日	根身ニ「シソ」ヲ生シ圓形ニ屈曲シ得ル程度

鹽ト糠ハ食用ノ時期ニヨリ異ナルモ大凡ヲ左ニ標準ヲ示ス

食用ノ時期	糠ノ量	鹽ノ量
二月 三月	六升	二升
四月 五月	五升	三升
七月 八月	四升	五升

早ク食用ニスル分ハ鹽ヲ少ク糠ヲ多クス  
此ノ分量ガ普通標準量デアル  
七月、八月ノ盛夏ニ食用ニスル分ハ鹽ヲ多クス

鹽ト糠ヲ能ク混合シテ各厨均一ニ行キ渡ル様注意ヲ要ス。四斗樽ニ大根約五〇疋(約一五〇本)漬込可  
 能ナリ。樽ノ下層ニ混合材料(糠ト鹽ノ混合物)ヲ約五、六分ノ厚サニ撒布シ大根一段並ベ又混合材料  
 ヲ撒布ス。ソレヲ繰返シ樽ノ上部三、四寸盛上ツタ時漬込ヲ止ムベシ。樽ノ上部ニハ糠ト鹽トノ混合物  
 ヲ稍多量ニ撒布シ乾燥シタル大根葉莖ヲ一列ニ並ベ蓋ヲナシ重石六、七十疋ノモノヲ載セルベシ、尙味  
 付ケノ目的ヲ以テ蕃椒ヲ少量挿入スルコトアルヘシ

三、白菜、大根ノ昆布漬

本漬ノ割合ハ別ニ一定シタモノニテハ勿論ナキモ大體次ノ標準ニ依ルヘシ

- (イ) 白菜五〇疋ヲ荒漬シアルモノ
- (ニ) 柚子<sup>ユズ</sup>ノ皮三、四個分、柿ノ皮モ良シ
- (ロ) 昆布三疋乃至四疋、昆布ハ細ク切ルヘシ
- (ハ) 清酒三合乃至四合
- (ホ) 食鹽一疋

漬ケ方ハ糠漬ト同シ、重石ヲ置クコト糠漬ニ同シ

四、味噌漬

味噌ハ各種ノ野菜ヲ漬込スルモ人参、胡瓜、茄子、大根等最モ多ク漬込セラル。各種共一度鹽漬ニシタ  
 ル後(四斗樽ニ付一升ニテ漬ケル)引上ゲ日光ニ乾燥(一日乃至二日)セシメ其後味噌ニ漬込ムヘシ。  
 味噌ノ腐敗無ケレバ數ケ月間貯藏可能ナリ。

運城地方ニ於ケル  
蔬菜種子ト收穫量トノ標準表

品目	反當播種量	反當收穫量	摘	要
牛蒡	七〇〇 <sup>反</sup>	八〇〇〇 <sup>反</sup>	瀧ノ川種ヲ可トス	
人参	一五〇〇	一、八〇〇〇	毛引	
大根(秋)	一〇〇〇	一、二〇〇〇		
時無大根	一〇〇〇	一、〇〇〇〇		鹽分ニ強ク栽培容易ナリ
美濃早生大根	一〇〇〇	一、二〇〇〇		
廿日大根	一五〇〇	七〇〇〇		
蕪菁	九〇〇	七五〇〇		
茄子	四五〇	一、六〇〇〇	直播ヲ可トス	
胡瓜	三〇〇	九〇〇〇	鹽分ニ弱シ	
南瓜	四五〇	一、二〇〇〇	會津早生、甘栗南瓜、當地ニ適ス	
甜瓜	三〇〇	八〇〇〇		
西瓜	四〇〇	一、〇〇〇〇		
越瓜	三〇〇	九〇〇〇	東京早生越瓜ハ特ニ當地ニ適ス	

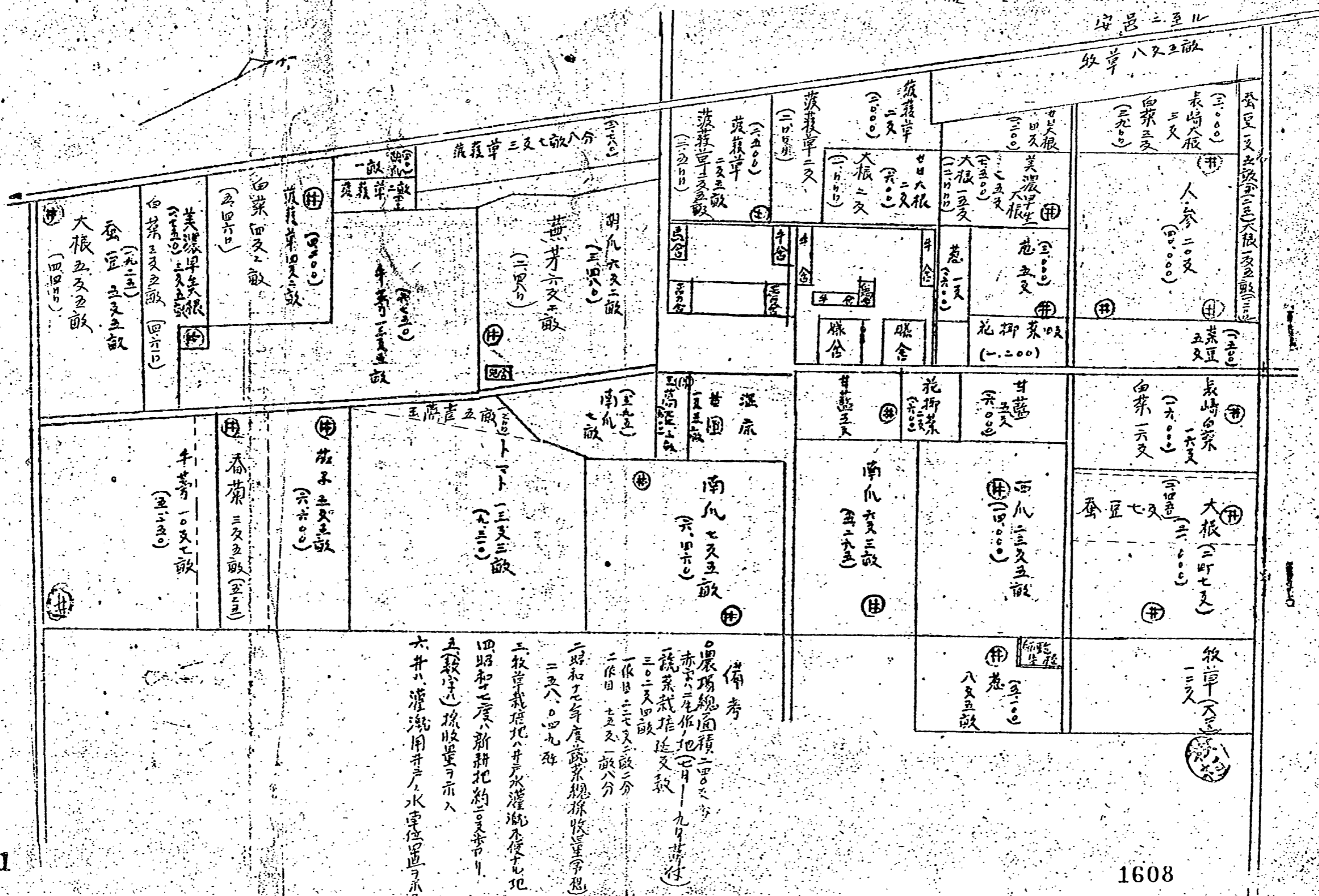
甘 藍	白 菜	菠 薐 草	長 崎 白 菜	高 菜	芥 子 菜	葱	萵 苣	春 菊	小 松 菜	三 尺 サ、 グ	ト ム ト	小 豆	大 豆	燕 麥	小 麥	粟
三五〇〇	五〇〇	二三〇〇	四五〇	四〇〇	五〇〇	二五〇〇	六〇〇	七二〇	四〇〇	二二〇〇	二五〇	四〇〇	五〇〇	八〇〇	六〇〇	二五〇〇
一、五〇〇〇〇〇	一、四〇〇〇〇〇	一、二〇〇〇〇〇	九〇〇〇〇	一、〇〇〇〇〇	一、七〇〇〇〇	八〇〇〇〇〇	七五〇〇〇〇	八〇〇〇〇〇	一、〇〇〇〇〇	四五〇〇〇〇	一、三〇〇〇〇	七〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	一二〇〇〇〇	一八〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇
甘藍ハ晩生種ヲ可トス	運城地方ハ特ニ品種ノ選定ヲ必要トス愛知白菜ハ可ナリ	菠薐草ハ鹽分ニ強ク七、八月ノ盛夏ト十二月一、二月ノ外高付ヲ可トス		當地方ニハ青菜高菜ガ適當ナリ				元肥ニ馬糞ノ如キ有機質肥料ヲ多量施用ノコト		菜豆ハ鹽分ニ弱クモ本種ハ鹽分ニ強ク當地ニ適ス	大型トマトノ栽培ヲ可トス	支那種(綠小豆)内地ニ於テハ普通反當二五〇砵	内地ニ於テハ普通反當一五〇砵―二〇〇砵	内地ニ於テハ普通反當四〇〇―五〇〇砵	内地ニ於テハ三〇〇―四五〇砵	

備考

1. 蔬菜ノ反當收穫量ハ運城野倉庫農場(昭一六一―一八)ニ於ケル收穫量ヲ標準トス
  2. 大豆、小豆、燕麥、小麥ノ反當播種量並ニ反當收穫量ハ運城地方農民ノ栽培ヲ豫想シタルモノナリ
- 但シ燕麥ハ農場ノ坪刈ニ依リ調査シタルモノナリ



37D 農場概観図



備考  
 農場總面積二畝  
 赤土作地(月一九月計付)  
 蔬菜栽培延及畝  
 三〇二畝  
 一俵日二七又三畝二分  
 二俵日七五又一畝八分  
 昭和十七年度蔬菜總採收量予想  
 二五八〇四九畝  
 二畝草栽培地八井戸灌漑不便土地  
 四昭和十七年度新耕地約二畝  
 五畝(採收量可示入)  
 六井戸灌漑用井戸水車位直可示入

一 農場總積 二四五反歩

イ 用地面積

耕作地 二二七反二畝二分、敷地及道路其他 一三反二畝八分  
計 二四五反歩

ロ 建築物

苦力舎三棟 牛舎四棟 馬舎一棟 緬羊舎一棟  
豚舎二棟 鶏舎一棟 畜類番小屋五ヶ所

ニ 苦力費

イ 常用苦力一五〇名

ロ 常用苦力一ヶ年分支拂額（豫想） 二四〇〇〇圓

ハ 苦力作業時間

大体糶秣其他ノ勤務時間ニ準スルモ農場作業ハ倉庫ニ於テハ特殊  
ノ作業ナリ三月ヨリ五月下旬マテ整地、蒔付、定植ノ農繁期ハ特  
ニ勤務時間ヲ延シ午前八時ヨリ午後七時半マテ作業セントス

三 土地借用代

三四五反歩一ヶ年ノ借用代六七一圓八〇錢但シ年四回ニ分テ支拂ス

一畝 (支那畝) 三ヶ月五十錢

〃 一年 二圓 (田知七畝)

二四五反歩ノ内農學校實習地二五畝歩 (支那畝) アリ其ノ分地代支拂セス

10

0002

1610

各地區ニ交付シタル蔬菜種子量調  
但シ昭和十七年三月熊本市水道町肥後農園依リ購入シタル種子

品目	地區	子入荷種量	望原村	東嶺倉庫	東嶺地區	山口部隊	蒲州地區	城農場	殘量
葱		七六〇〇 <sup>K</sup>	五〇〇 <sup>K</sup>	三〇〇〇 <sup>K</sup>	一四〇〇 <sup>K</sup>	一五〇〇 <sup>K</sup>	一四〇〇 <sup>K</sup>		
春葱		二四〇〇〇		一〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	三二〇〇	五三〇〇	
花椰菜		一五五〇			三三〇	三三〇	三〇〇	一五五〇	
甘藍		一三〇〇〇		五〇〇	一〇〇〇〇	四〇〇〇	三三〇〇		
クシヤ		一〇〇〇			五五〇	一一〇	一一〇	四五〇	
胡瓜		五〇〇〇		五〇〇	一〇〇〇〇	一五〇〇	一〇〇〇		
西瓜		七二〇〇		五〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇	一三〇〇	
南瓜		七〇〇〇	五〇〇		一四〇〇	一四〇〇	一四〇〇		
蕃茄		四五〇〇		五〇〇	一六〇〇	一六〇〇	一六〇〇	一〇〇〇	

計	茄子	熊本太 長人參	長崎白菜	結球白菜	燕	聖護院 大根	美濃早 生大根	宮重大根	廿日大根	牛蒡	蠶豆
六三、七、一〇	一、五、六〇	一、五、〇〇〇	八、五、〇〇〇	六、八、〇〇〇	三、五、〇〇〇	三、五、〇〇〇	三、五、〇〇〇	五、五、〇〇〇	三、二、〇〇〇	六、二、〇〇〇	一、三、六、〇〇〇
一、一、〇〇〇				二、五、〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇		一、〇〇〇	五、〇〇	
四、〇〇〇〇			四、〇〇〇	四、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	四、〇〇〇	五、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	五、〇〇〇
一、五、六、〇〇〇			一、五、〇〇〇	二、一、〇〇〇	六、〇〇〇	八、〇〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇	六、〇〇〇	二、〇〇〇	三、〇〇〇〇
一、三、八、〇〇〇			一、二、〇〇〇	二、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	一、〇〇〇	一、五、〇〇〇	五、〇〇〇	一、六、〇〇〇	三、〇〇〇〇
二、三、四、五、〇			九、〇〇〇	二、〇〇〇	四、〇〇〇	七、〇〇〇	九、〇〇〇	一、五、〇〇〇	五、〇〇〇	一、四、〇〇〇	二、〇〇〇〇
一、六、八、〇〇〇	一、五、六、〇	一、五、〇〇〇	四、五、〇〇〇	五、〇〇	一、五、〇〇〇	八、〇〇〇			一、二、〇〇〇	八、五、〇〇	五、一、〇〇〇

現地物資ヨリ交付シタル野菜種子

計	桑豆	蕃茄	春菊	西瓜	胡瓜	茄子	牛蒡	甘大根	宮蓴大根	燕	曾藍	李子桑	品目/地
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	單位
四六	四	二	三	三	三	一	七	三	八	一	七	四	王芳録
五七	三	二	三	三	四	二	七	四	二五	二	八	四	解村
三八	三	一	二	二	二	二	五	二	一〇	二	五	二	祁家河
一一	一		一	一	一	一	二	一	二		二		望源村
一四	一	一	一	一	一	一	二	一	二	一	一	一	下唇同
一一	三			一		一	三		二		二		八政村
一〇	二		一	一			二		二		二		内城
七	一		一		一		一		三				沼南鎮
一一	一		一	一	一	一	三	一	六	一	三	一	郭原村
四三	三	二	二	二	二	一	六	三	一〇	一	八	三	蘇村
八〇	七	二	五	五			二		二〇	二	二	五	遠城野場
													總計

昭和十七年度ニ於ケル栽培蔬菜ノ播種並ニ品種  
播種期、採收量（該總數）

品目	播種期	反當播種量	反當栽培量	種子量	反當採收量	採收量	備考
大豆	五月上旬	11100	5000	11100	110000	110000	鹽分ニ弱シ
人参	五月上旬	1500	11000	11000	110000	110000	
長崎菜	四月上旬 八月九月	500	11000	10000	100000	190000	年一尾ニ壽付
春菊	四月上旬 九月上旬	714	350	2499	15742	52500	間作ニ栽培其ノ他 春秋二期
ケシヤ	三月下旬 四月下旬	210	120	1096	117500	110000	ケヤ間作又ハ促成栽培ス
蒸青	八月上中旬	400	210	2480	38583	110000	
渡邊草	三月下旬 四月下旬 九月下旬	2300	1218	3776	100000	171800	春秋二期ニ壽付
白・桑	八月上中旬	1500	2700	13700	17573	34870	
大根	八月下旬 九月上旬	900	4700	4368	97510	46190	

牛蒡	茄子	蕃茄	南瓜	南瓜	西瓜	苜蓿	花椰菜	葱	生大根	甘日大根	蠶豆
三月下旬 四月下旬	"	"	"	四月上旬中旬	四月上旬	四月上旬中旬	四月上旬	四月上旬 九月下旬	四月下旬 六月七月	三月下旬 四月上旬	四月上旬 四月中旬
五〇〇	五〇〇	二五〇	三〇〇	四〇〇	四〇〇	五〇〇	四〇〇	二五〇〇	一〇〇〇	五〇〇	三〇〇
二四二〇	五〇〇	一三〇〇	六〇〇	一四〇〇	二二〇〇	一〇〇〇	六〇〇	一四〇〇	一六〇〇	六〇〇	一四〇〇
一七〇〇	一四〇〇	三三二五	一八〇〇	二六〇〇	九二〇〇	四〇〇〇	二四〇〇	三三〇〇	一八〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇
七〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	七〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇	八八二二二	六〇〇六九	一〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	六〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三五六二二
一一一〇〇〇〇〇	六六〇〇〇〇〇	九三一〇〇〇〇	一五二〇〇〇〇	一四〇〇〇〇〇〇	一四〇〇〇〇〇〇	一一〇〇〇〇〇〇	一八〇〇〇〇〇〇	八七〇〇〇〇〇〇	八二五〇〇〇〇〇	一八〇〇〇〇〇〇	四八五〇〇〇〇〇
春蒔六年内ニ採收シ九月下旬蒔公登年ノ八月採收	直蒔	冷床ニ蒔付シ・一箇移植	"	"	直蒔	"	冷床ニ蒔付	一部蒔付能ハ冷床	年三蒔ニ分テ蒔付		又歐モナシ當地採收 量不明



計								計	三〇三〇		三〇三〇
月別	品目	採	收	量	月別	品目	採	收	量		
四月	渡邊草	二〇〇〇	〇〇〇〇		六月	美濃早生大根	二五〇〇	〇〇〇〇			
計		二〇〇〇	〇〇〇〇		計	渡邊草	二〇〇〇	〇〇〇〇			
五月	春菊	三〇〇〇	〇〇〇〇		七月	菜豆	七〇〇	〇〇〇〇			
計	渡邊草	三〇〇〇	〇〇〇〇		計	西瓜	四〇〇	〇〇〇〇			
六月	ケレヤ	五〇〇〇	〇〇〇〇		計	南瓜	二五五	〇〇〇〇			
計		三〇〇〇	〇〇〇〇		計	南瓜	二五五	〇〇〇〇			
計	長崎白菜	五〇〇〇	〇〇〇〇		計	南瓜	二五五	〇〇〇〇			
計	甘日大根	八〇〇〇	〇〇〇〇		計	ケレヤ	六〇〇	〇〇〇〇			

月別ニ依ル蔬菜採收高  
 栽培延面積三〇二反四畝  
 採收量、二五八、〇四九石

二五八〇四九〇〇〇

七月	長崎白菜	共〇〇〇〇〇〇
甘日大根	一〇〇〇〇〇〇〇〇	
美濃早生大根	二〇〇〇〇〇〇〇〇	
計	一六四五〇〇〇〇	
八月	人參	三〇〇〇〇〇〇〇〇
葱	一〇〇〇〇〇〇〇〇	
花蔞菜	五〇〇〇〇〇〇〇〇	
小豆	三一〇〇〇〇〇〇〇〇	
茄子	一六〇〇〇〇〇〇〇〇	
豆	二〇五〇〇〇〇〇〇〇〇	
菜豆	八〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	
西瓜	五〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	
南瓜	五〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	
胡瓜	一五二〇〇〇〇〇〇〇〇	
八月	美濃早生大根	共〇〇〇〇〇〇
計	二〇〇〇〇〇〇〇〇	
九月	白菜	二〇〇〇〇〇〇〇〇
甘藍	五〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	
人參	三〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	
葱	二〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	
花蔞菜	七〇〇〇〇〇〇〇〇〇	
小豆	四〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	
茄子	二〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	
長崎白菜	五〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	
西瓜	五〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	
南瓜	五〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	
計	三九七〇〇〇〇〇〇〇〇	
一〇月	大根	二〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
牛蒡	五〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	

〃	〃	〃	一月	計	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一月
牛蒡	薯蕷	大根	蕪		美濃早生大根	長崎白柴	蕪草	茄子	卜	花部(柴)	葱	人参	甘藷	白柴
二〇〇〇〇〇〇〇	二二五〇〇〇〇	四〇〇〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇〇〇	四六一〇〇〇〇〇	四〇〇〇〇〇〇〇	四〇〇〇〇〇〇〇	四〇〇〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇〇〇	四〇〇〇〇〇〇〇	六〇〇〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇〇〇	七〇〇〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇〇〇
一月	計	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一月	計	〃	〃	〃	〃	一月
牛蒡		蕪草	葱	人参	白柴	牛蒡	大根	蕪		蕪草	葱	人参	甘藷	白柴
二五〇〇〇〇〇〇〇	三三四〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇〇〇	八〇〇〇〇〇〇〇	一四〇〇〇〇〇〇〇	三三〇〇〇〇〇〇〇	二一八〇〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇〇〇

一月	人參	八〇〇〇〇〇	二月	牛蒡	二一〇〇〇〇
〃	大根	三〇〇〇〇〇	計	計	二九二九〇〇〇
〃	白桑	三八七四〇〇〇	三月	葎草	二〇〇〇〇〇〇
計		二一三七四〇〇〇	合計		二五八〇四九〇〇〇
二月	大根	二一三七四〇〇〇			
	葎草	二一三七四〇〇〇			

昭和十七年度蔬菜採收豫想高二五八、四九疋ヲ幾人ニ補給出來得ルカ、運城地區六〇〇〇名トシ計算ス

品目	定 量	補給率	現地調達率	全上數量	現地調達率	現地自給率
野菜	六〇〇〇 <sub>g</sub>	$\frac{8}{10}$	$\frac{8}{10}$	四八〇 <sub>g</sub>	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{2}$
品目	現地自給數量	一人年間所要量	六〇〇〇人ノ所要量	不足數量	摘 要	
野菜	二四〇	八七六〇〇	五三五六〇〇〇〇	二六七五五二〇〇〇	生産量	二五八、〇四九疋

◎二五八、〇四九社ノ生産数量テ二九四五人ヲ一ヶ年需給出來得ル

◎二五八、〇四九社ノ野菜ヲ六〇〇〇名ニ交付シテ一七九日分(六〇〇〇人一日ノ所要量  
(一四〇社)

昭和十六年度中ノ部隊交付蔬菜数量

一三六、四三五社 但シ倉出傳票ニ依ル数量ニシテ實際ハ上記ノ數字ヨリ多ク交付シ

シタ筈ナリ(一部ハ現地物資ニ倉出ヲ保管中其ノ分計算セス)

昭和十六年度ト昭和十七年度ノ蔬菜采收量ノ比較

昭和十六年度ノ采收量一三六、四三五社(交付實收)

昭和十七年度ノ采收量二五八、〇四九社(交付理想量)

廿五、  
廿五、  
四三、  
(昭和十七年度ノ采收理想)

昭和十七年度增收ノ理由

十六年度ハ一毛作ノ土地多ク又作付ナキ土地多カリシカ本年度ハ農場全面積ノ八割以  
上ヲ利用計畫中、又二毛作地モ十六年度ニ比較シ約四割歩増加ヲ見各蔬菜ニ於テモ特  
ニ鹽分ニ強キ品種ヲ選定セリ以上ノ理由ニ依リ增收ヲ見タルモノナリ

養畜類

昭和十七年四月一日現在ノ飼育數

種類	飼育數	摘	要
馬	二四頭	馬ハ農場又ハ水車ニ使用	
牛	六十九頭	牛ハ農場ニ於テ役牛二頭、五木頭ハ肉用牛	
綿羊	三三頭	綿羊ハ飼育費安懐ニシテ且又飼育ニ容易ナルタメ肉用トシテ飼育中	
山羊	二〇頭	右同	
豚	二〇八頭	豚ハ購入セシモノ一〇八頭、一〇〇頭ハ農場ニ於テ繁殖用ナリ	
鶏	一六〇頭	部隊交付用ニ現地物ニ於テ購入セルモノナリ	

一馬ハ耕作ニ使用 現在農場ニ灌漑用井戸ニ于テ所アリ 其井戸、水車ニ畜力。

(馬)ヲ利用シテ平ル

二牛ハ農耕(牛耕整地)ニ現在ニ頭ヲ利用中ナルモ能率ノ劣リニ言馬ニ劣ル 飼育中ノ牛五九頭ハ地方ヨリ購入シタル牛ニシテ因用牛ナリ。

(農場ニ於テ因用牛繁殖ハ不可能ナリ)

三豚 緬羊、山羊、ハ特ニ繁殖旺盛ニシテ飼育容易ナリ 本年ハ豚、繁殖ニ力

ヲ注キ 現在飼育数、二倍ヲ目標トセン

農場飼育中、親豚ト繁殖予想数

期間 自十七年四月、一ヶ月間  
至十八年三月

牝豚	八四頭	子	五六頭	一六八頭	備 要
牝豚	三二頭	分挽率	分挽頭数	繁殖数	
牝豚	親豚ノ数	分挽率	分挽頭数	繁殖数	普通牝豚一五頭乃至二五頭ニ牝豚一頭、飼
牝豚	八四頭	子	五六頭	一六八頭	

右ノ繁殖数ハ全部ノ平均ヲミラルモノニシテ一頭ノ親豚ガ分塊一腹ニ三頭ニ至五頭ノ  
多産ノ豚モアリ又ニ二頭ノ分塊モアリ発育不良ニシテ死亡豚モアルモ平均三頭成育スルモノ  
ト予想ミタ

#### 四、養豚

豚ハ千羽ヲ目標トシテ繁殖器利用解任施行中。



正誤訂正

二三頁	一八頁	一一頁	目次八	頁數
十二行	三、四行	二行	十行	行數
モ地ノ	庭	標準トス	輸裁	誤
其ノ	瓦	標準トス(内地)	輸裁	正
	三字	(内地)ヲ挿入		摘要